1/16(土) まいど！倫理です。皆さんお早ようございます。未だ薄暗い朝です。1212号読んで感じました、私も嫁息子夫婦社員さんに頼って3年です。けど私しか出来ない仕事を実践し続けています。早出し清掃し皆んながいつでも出掛けれる用意します。私しにも出来る仕事やり続け健康です

幸心運心 ロボー鳥

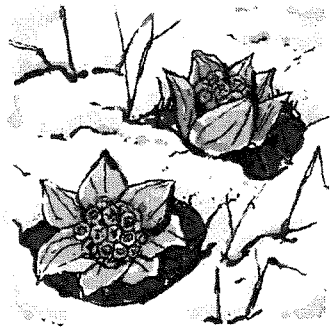
今週の倫理

1月のテーマ　心即太陽

2021. 1. 16～1. 22

1212号

任せ切る心への転換から生きる希望が蘇った



前職の経験を活かし二十年前に独立・開業し、不動産会社を営むA氏。従業員は、妻と息子、パートの三名です。地元のお客様からの支持もあり、商売は順調でした。

ところが、半年前のことです。妻から「あなた、何だか顔色が悪いわよ」と言われたのです。さっそく自分の顔を鏡で確認すると、〈確かに顔色が黄色いな〉と感じました。息子からも「お父さん、すぐに病院に行ったほうがいいよ」と勧められ、妻と二人で病院に向かいました。

それから、一カ月ほど通院し、様々な検査を受けた結果、「総胆管がん」ということが判明しました。医師からは「病巣を取り除くためには手術が必要です。手術は十時間以上に及び、術後も長いリハビリを要します」と告知されたのです。その瞬間、A氏は、目の前が真っ暗になりました。隣にいた妻も涙が止まりませんでした。

さらにA氏は、〈もし手術が失敗したらどうしよう〉〈妻や息子、会社はどうなるだろうか〉など、次から次へと悪いことばかりが頭に浮かんできました。

病院から自宅へ戻っても、妻に何と言葉をかけていいかわからず、口を開くことができませんでした。数時間後、A氏は、息子に自身の病名を告げました。それを聞いた息子からは、「会社のことは任せて。お父さんは、病気を治すことだけ考えて」と言われました。とはいえ、息子は会社に入ってまだ五年です。一通りの仕事は覚えましたが、経営的な判断が出来るかどうか心配でした。そこでA氏は、倫理指導を受けることにしたのです。

講師からは、「奥様や息子さん、会社のことばかり心配しないで、自分自身の心配をしたらどうですか。今のあなたは、マイナスなことばかり考えていますよね。まるで『死にたい』と言っているように思えますよ。そうしたマイナスの思いを捨てて、〈生きたい〉という強い希望を持ってください。看病は奥様に頼み、会社は息子さんに任せ切りましょう」とアドバイスを受けたのでした。

確かに、今のA氏には何もできません。看病は妻に、会社は息子に任せるほかありませんでした。そこで、講師から言われたことを素直に実践しようと決意すると、心が少し軽くなったのでした。

後日、十二時間にも及ぶ手術は、無事、成功しました。面会に来る妻も嬉しそうです。また、妻から息子の仕事ぶりを聞き、安心しました。息子は、これまでの不動産の販売・管理・仲介だけではなく、知人を介して積極的に営業しているようで、売り上げも堅持しているとのことでした。

振り返ると、A氏は過度に心配するがために、暗い気持ちになり、自分を追い込んでいたのです。しかし倫理指導を受けて、〈生きたい〉という希望が湧き上がり、心が前向きになったのでした。家族の支えから、〈生かされている〉と実感できるようになったA氏。今は、〈リハビリこそ自分の使命〉と心得て取り組んでいます。

え・城谷俊也

一般社団法人倫理研究所法人局